

白河

広報

7

2013.7.1 No.92



■市内で最初のプール授業（関辺小／6月14日）



コンピエーニュ城の庭でジャンプ！（コンピエーニュ・白河協会のバンサン・ルーセルさん提供）

人に優しくすることの大切さを学んだ

かけがえのない7日間

7日間は、日常生活の中ではすぐに忘れてしまう時間。でも、生涯忘れることのできない、かけがえのない時間もきっとあるはずだ。

「平成24年度中学生国際交流事業」では、市内の中学生23人が派遣生としてフランスを訪問、7日間で大きな成長を遂げました。今月号では、派遣生の体験と、この事業を支える人々にスポットを当てます。

25年の友好が示すもの

今年も、本市とフランス・コンピエーニュ市が姉妹都市として交流を始めてから25周年の節目の年です。これまで13回にわたり、市内の中学生を同市に派遣していますが、それは、ホームステイの受け入れがあつてこそ成り立つもの。継続するこの事業が、強いきずなで結ばれた友好の証です。

旅の始まり

派遣事業に参加するきっかけは様々です。親に勧められた。姉が行ってきたから。自分を変えたい。興味があった

国際交流事業は、心の交流を はぐくむ

国際間の交流として、政府の交流、経済交流も大事ですが、実は市民レベルの心の交流が最も大切だと思います。例えば、国際間のあつれきがあつても、個人同士の深い信頼があると、断絶には至りません。白河市民とフランス・コンピエーニュ市民との間に根付いた友好関係がこれを立証しています。

中学生は多感で何でも吸収できる時期です。3日ほどですが、ホームステイでは言葉も習慣も違うフランスという国の家族の一員になって、普段の生活を体験します。生徒たちは、フランスの文化にアコがれたり、語学の勉強に目覚めたり、逆に日本の良さを再確認したりと、大きな収穫を得たことを報告してくれています。

key person

市国際交流協会会長
齋藤 敬さん
Saito Takashi



市国際交流協会事務局（本庁舎秘書広報課内） ☎1111 内2372

心構えを身に付ける

旅立ちには準備が必要です。旅の心構えを身に付けるために、派遣生たちは3回の研修を受けます。今回から新たな試みとして、フランス人による語学講座を取り入れました。直接耳にするのももちろん初めて。どの派遣生も、あつけにとられていました。しかし、順応が早い年代。少しずつ、確実にフランス語になじんでいきます。現地に赴く前

に、生のフランス語を体験できたことは、大きな財産になりました。



①3グループに分かれ現地で披露する歌を練習、派遣生同士のコミュニケーションも深まりました
②派遣生にフランス語を教えるパスカル先生

旅立ち。そしてサプライズ

3月23日、いよいよ旅立ちのときを迎えました。初めての海外と親元を離れることへの不安、フランス体験への期待。派遣生たちの心の中には、様々な思いが駆け巡っていました。白河を離れ、成田国際空港に到着。そして、23人の派遣生を乗せた飛行機は日本を飛び立ちました。

機内で12時間半の時を過ごし、パリのシャルル・ド・ゴール国際空港に到着。まず、時差を体験します。日本とフランスの時差は8時間。空港のロビーで腕時計の時間を合

わせていると、そこでサプライズが。コンピエーニュ・白河協会の皆さんが、日本語で「ようこそ」と書いたパネルを持ち出迎えてくれたのです。思いもよらない歓迎に、派遣生たちの不安は少し和らいだように見えました。こうして現地での交流が始まりました。



到着を歓迎してくれたコンピエーニュ・白河協会の皆さん

異文化での体験は、何事にも立ち向かう強さが身に付く

外国人と接することで、たくさんのことを学ぶことができます。まずそれまで想像もできなかった外国の文化。それに日本から海外に行けば、日本のことを説明できなくてはなりません。自分の国のことは案外、聞かれると答えに詰まるものです。それから自分自身を理解するチャンスに恵まれます。異文化に身を置いたとき、どう対応するかは自分自身の責任。思い掛けず大胆だったり、逆に縮こまってしまう自分を見つけるかもしれない。若いうちの国際交流体験は、その後社会に出て経験する多くのことに、ひるまず立ち向かうことができる強さを与えてくれると思います。どうぞ異文化を体験してください。



key person

第2・3回研修会
フランス語講座講師
ノワロー・ジョン＝パスカルさん
Jean-Pascal NOIRAULT
郡山市在住。フランスワイン直輸入販売店(有)ワークステーション(店舗名J.P.M.)を経営



報告書の一部を紹介！ Vol. 1

派遣生がつづった報告書の一部を、グループごとに紹介します。(派遣生Aグループ)

- 我妻美佳さん** (東中)
ホームステイで積極性が身に付きました。感謝しています。
- 荒井寿美さん** (中央中)
笑顔と自己表現力は、とても大切だと感じました。
- 今井きららさん** (東北中)
生活や文化が違っても、人の「優しさ」は世界共通だと感じました。
- 薄井彩寧さん** (中央中)
コンピエーニュのまちなみはとてもきれいでした。
- 喜屋武咲月さん** (中央中)
コンピエーニュに大切な友達が出来ました。また、日本の良さを再発見しました。
- 工藤 元さん** (表郷中)
将来、世界の様々な国に行き、その文化に触れたいくなりました。
- 小峰光由さん** (白二中)
フランスは驚きの連続。貴重な体験ができました。

Interview 04

思い出とともに、親への感謝の気持ちを忘れずに

派遣生全員を笑顔で帰国させることが私の使命でした。それは「団長」という大役を受けたときから始まりました。重責は感じましたが、彼らと過ごした7日間は、思い出に残る素敵な時間となりました。

この旅の友だった23人の生徒たち。今はそれぞれ違う学校ですが、今後、高校やほかの場面で再開することもあるでしょう。そのときは、旅の思い出を語り合ってほしいと思います。そして、この経験を生かし、様々な分野で活躍してくれると信じています。それから、このチャンスを与えてくれた親への感謝の気持ちを決して忘れないでください。



key person

平成24年度中学生国際交流事業派遣団団長
(市国際交流協会理事)
矢吹篤史さん
Yabuki Atsushi

- ①ゴシック様式のコンピエーニュ市庁舎
- ②ホストファミリーとの対面式（市議会会議場）
- ③ウェルカムパーティーで歌を披露
- ④ピエール・ダリ高校で日本語を学んでいる生徒と、折り紙や習字、歌で交流
- ⑤コンピエーニュ城を見学
- ⑥ホストファミリーとの別れ
- ⑦壮大なヴェルサイユ宮殿
- ⑧興奮も最高潮、エッフェル塔
- ⑨サモトラケのニケ像の前で（ルーブル美術館）
- ⑩建設850年を迎えたノートルダム寺院
- ⑪モンマルトルの丘にそびえるサクレクール寺院
- ⑫セーヌ川から眺める夕暮れのパリのまち並み



パリに向かう途中では、ゴッホゆかりの地オーヴェル・シュル・オワーズやヴェルサイユ宮殿を見学。パリに着き、高台から望んだエッフェル塔は、まさに感動の一言でした。27日は地下鉄での移動です。研修で学んだ、気を引き締める「行動」を心掛けたら、オルセー美術館、ルーブル美術館を巡りました。教科書で

芸術の都パリ。そして帰国
重な体験になりました。彼らは「人に優しくすることの大切さ」を、異国の地で、身をもって学んだのでした。

しか見たことのない芸術の数々を目の当たりにし、派遣生たちは終始興奮していました。28日、いよいよフランスの最終日となりました。まず訪れたのはノートルダム寺院。今年建設から850年を迎えた記念の年です。派遣生たちは、設置されたばかりの新しい鐘の音色に耳を傾けました。続いてモンマルトルの丘にあるサクレクール寺院を見学、セーヌ川クルーズでは、夕暮れ時のパリの美しいまち並みを船上から眺めました。そして空港へ。多くを学んだフランスに別れを告げ、帰国の途につきました。



5月10日の帰国報告会で再会を喜ぶ派遣生たち。各自の体験を発表しました

伝えることで成長する
この7日間の体験は、派遣生たちの将来につながる糧となることでしょう。そして、フランスで「何を感じ、何を思ったか」を自分の言葉で伝えられるようになったとき、彼らはさらに成長するのです。



空港からバスに揺られること1時間半。コンピエーニュ市に到着します。中世のたたずまいを残すまち並みは、ここがフランスであることを改めて実感させると同時に、胸の高鳴りを感じさせました。ゴシック様式のコンピエーニュ市庁舎に入り、お世話になるホストファミリーと対面を果たします。そして期待と不安の中、ホームステイが始まりました。各ホストファミリーと過ごす3日間。2日目にはウェルカムパーティーに参加、3日目にはピエール・ダリ高校生との交流やコンピエーニュ城見学など、楽しい時間を過ごしました。3月26日、別れの朝が訪れます。伝えたい感謝の気持ちを、日本語ならもつと伝えられるのに。もどかしさと別れの悲しさを胸に、ホストファミリーに見送られながらコンピエーニュ市を後にしました。派遣生にとってこの3日間のホームステイは、とても貴重



コンピエーニュの地で学んだこと

空港からバスに揺られること1時間半。コンピエーニュ市に到着します。中世のたたずまいを残すまち並みは、ここがフランスであることを改めて実感させると同時に、胸の高鳴りを感じさせました。ゴシック様式のコンピエーニュ市庁舎に入り、お世話になるホストファミリーと対面を果たします。そして期待と不安の中、ホームステイが始まりました。各ホストファミリーと過ごす3日間。2日目にはウェルカムパーティーに参加、3日目にはピエール・ダリ高校生との交流やコンピエーニュ城見学など、楽しい時間を過ごしました。3月26日、別れの朝が訪れます。伝えたい感謝の気持ちを、日本語ならもつと伝えられるのに。もどかしさと別れの悲しさを胸に、ホストファミリーに見送られながらコンピエーニュ市を後にしました。派遣生にとってこの3日間のホームステイは、とても貴重

報告書の一部を紹介！ Vol. 3 (派遣生Cグループ)

- 富田竜平さん** (白河南中) フランスで見て、聞いて、感じたことをこれから人生の新たなきっかけにします。
- 清川菜緒さん** (白二中) ホームステイで、人に優しく接することの大切さを学びました。
- 縄田美涼さん** (中央中) フランスの感動的な景色が、今でも心に残っています。
- 林 紗良さん** (白二中) いつかまたフランスに行って、ホストファミリーに会いたいです。
- 遠見千海さん** (中央中) ホストファミリーとの時間は楽しくてあっという間で、別れがつかないです。
- 堀川紗瑛さん** (中央中) 「ありがとう」の言葉には、感謝の気持ちを込めることが大切だと感じました。
- 増子優花さん** (中央中) フランスでお世話になった人たちに、自分から会いに行きたいです。
- 渡邊千紗季さん** (中央中) ホストファミリーは、本当に心の温かい皆さんでした。

報告書の一部を紹介！ Vol. 2 (派遣生Bグループ)

- 齋藤憲翔さん** (五箇中) たくさんのお出会いは、すべて良い経験になりました。
- 志田智哉さん** (中央中) 日本とフランスの比較で、多くの発見がありました。
- 白井美咲さん** (中央中) フランスで、適応力とたくさんのお出合いを得ることができました。
- 杉本安衣香さん** (白河南中) たくさんのお友達ができました。大人になったらまた行きたいです。
- 鈴木夏奈子さん** (東北中) 日本とフランス、それぞれが持つ文化の素晴らしさを実感しました。
- 鈴木佑奈さん** (中央中) 様々な文化に触れることができました。将来は国際的な人になりたいです。
- 鈴木伶奈さん** (中央中) ホームステイは楽しく、学ぶこともたくさんありました。
- 田家里那子さん** (中央中) 楽しかったホームステイ。3日間があっという間に過ぎました。

異なる国・文化・生活を体験する彼らの意欲と好奇心をたたえたい

毎年、白河市の中学生が訪問してくれることをとても嬉しく思っています。私たちは、ここで、特に彼らがホームステイをする家族と過ごす限られた時間の中で、フランス人の普段の生活などを通して、様々な発見ができるよう努めています。そして何より、子どもたちがフランスへ行くことに賛成し、送り出してくれるご両親に心から感謝します。訪問する中学生たちのほとんどが、今回初めての海外旅行だと思っています。そんな彼らにとってここでの生活は、今までとはまったく違うものではないでしょうか。別の国・文化・生活を体験しようとするそんな彼らの意欲と好奇心を、私は心から褒めたたえます。毎年そうですが私たちホストファミリーは、彼らともう少し長く一緒にいることができないかと思っています。2014年派遣の中学生たち、会えるのを楽しみにしています。そして、今まで来てくれた中学生たちもぜひ、また来てください。

白河市との交流は、今年で25年目です。人間の年として見れば、まだまだ若い。これからももっともっと、たくさんのお出合いを一緒にやっていけると信じています。

key person

コンピエーニュ・白河協会
バンサン・ルーセルさん
Vincent Roussel



有賀酒店 有賀 毅さん

現在、大河ドラマ等の影響もあり白河の文化・歴史が注目されています。しかし、白河に店舗を構えている私自身、白河についての理解が不十分なところがあります。この「白河まちなか逸品」はそんな私にぴったりの事業でした。

この事業の1番の目玉は、「人と人とのつながり」だと思います。今では、まちなか逸品の仲間であっても、この事業が始まる前は顔を合わせたことすらなかった人もいます。また、「まちなか逸品巡りツアー」と「ちよい飲みツアー」では、案内している私が店主や参加者の方に学ばされることも多いです。

まちなか逸品の活動が活発になり、仲間づくり・絆の強化が進み、顧客・情報共有につながれば、まち全体での顧客満足度は必ず上がるはず。それは自身の発展とまちの活性化にもつながります。店舗としてまたは一般参加者として、どちらでも構いません、皆さんもまちなか逸品の活動に参加してみませんか。ともに学び、まちを活性化させていきましょう。



『手ぬぐいのハンカチ』
和雑貨 麻の葉 (中町・楽蔵内)
岡部律子さん

これからの季節に大活躍！ブックカバーやギフトラッピングにもアレンジできます。



『小峰城(シロ)丼』
のみくい処 やまだや(昭和町)
山田梨乃さん

萌えキャラの小峰シロとのコラボメニューです。小峰城の三重櫓をイメージしたカツはボリューム満点です。

逸品

2年目第2弾

白河まちなか逸品

を集めたら
白河のまちは専門デパート

◎特集 魅力の「一店逸品運動」

一店逸品運動の加算店は、こののぼりが目印！



『清流豚の赤ワインシチュー』
えきかふえSHIRAKAWA(郭内)
緑川可奈子さん

白河ブランド清流豚を赤ワインでじっくり煮込みました。昼も夜もお楽しみいただけます。



『八重の桜切りそばと外一そばの2色割子そば』
外一蕎麦 蕎太郎(中町)
保田大輔さん

香りの良い桜切りそばを、大河ドラマ「八重の桜」にちなんで5種類の具で味わってください。



『白河だるま絵付け体験』
渡辺だるま屋楽蔵店(中町)
木村陽子さん

筆やペンを使って、お気軽にオリジナルだるまを作ります。所要時間は30分程度です。



『ガス・オイル不要！充電式USBライター』
野村屋(中町)
長谷川智寛さん

USB充電で繰り返し使えます。また、炎が出ないため、風の強い屋外でも使用可能です。

一店逸品運動では、多くの方に専門店の魅力を知ってもらうため、今後も様々なイベントを行います。

7月21日(日)には、活動や商品を来場者に紹介する「白河まちなか逸品ちよい夏まつり」を、27日(土)には、各店のこだわりやお勧めの逸品を親子で体験しながら歩いて巡る「白河まちなか逸品夏休み親子体験ツアー」を開催します(詳細は20・22ページをご覧ください)。

◎本庁舎まちづくり推進課 ☎11111 内2743

夏まつりや親子体験ツアーを開催します

魅力を知ってもらうために

「個人店舗に元気がないと、地域は活性化しない。ならば、個人店舗を元気に」というコンセプトのもと「二店逸品運動」が展開されています。

今月号では、2年目の第2弾として、一店逸品運動に加盟する店舗の紹介とインタビューをお届けします。

きものの松河屋 安田宗一郎さん

様々な専門店が身を寄せ合い形成された商店街。私が子どものころに見た商店街は、今はその魅力が薄れてしまっています。

そんな今だからこそ、各専門店や商店が集まり互いを知り、連携を強めることが大切ではないかと始まったのが、この「白河まちなか逸品」です。参加してみると、専門店ならではのこだわりや技術、知識の豊富な店主さんたちがずらりと集まっていました。

私自身も交流を通して、他店の情報が増えたことにより、お客様からのご相談等に対して今まで以上に細かな話や、ご要望にそった専門店を紹介することができています。

品ぞろえや知識の豊富さは古くから携わる専門店ならではの。ぜひ一度、一度と言わずに二度、三度、そんな専門店ならではの世界に触れてみてください。皆さんのお越しを心よりお待ちしております。



『豆腐百珍』
吾妻豆腐店(愛宕町)
渡辺桂助さん

厳選された国産大豆を使用し、水の質にこだわっています。豆腐本来の甘みをぜひご賞味ください。



『着物の着方お教えいたします♪』
きものの松河屋(本町)
安田宗一郎さん

浴衣の時期に向け、着付け教室強化開催中！夏向けの涼感スプレーなどもあります。



『旬の野菜・果物の手作りジェラート』
り菜あん楽蔵店(中町)
大沼奈緒さん

地元産のミルクを使用した期間限定ジェラートです。塩チョコ味は楽蔵店限定です。



『マッコリ霧の華』
有賀酒店(大工町)
有賀 毅さん

アルコール分が少なめで、口当たりがさわやかなので、お酒が苦手な方も飲みやすいです。

放射線なんでも相談会

6月1日、中央保健センター（北中川原）で「放射線なんでも相談会」が開催されました。

11人の参加者が、8人の徳島大学白河支援アドバイザーを囲み、座談会で思いや悩みを出し合いました。その後の個別相談では、一人ひとりにアドバイザーがつき相談に応じました。

「家の周辺の放射線量が高い」「食品検査結果の見方がわからない」「井戸水にセシウムが混入していないか」「ホットスポットが心配」など、様々な相談にアドバイザーが丁寧に対応したことで、悩みが解決されたようでした。

市では今後も個別健康相談会や子育て相談会を開催する予定です。お悩みのある方はご参加ください。



▲アドバイザーに相談する参加者

ホールボディカウンター運用開始式

6月13日、白河厚生総合病院（豊地）で、ホールボディカウンター運用開始式が行われました。

このホールボディカウンターは、日本赤十字社から寄贈を受け、白河厚生総合病院に設置し、西白河地方の5市町村が共同で運用するものです。

鈴木市長は、「皆さんが安心して暮らせるよう、多くの方が検査を受け、安全であることを確認してほしい」と述べました。

また、同病院の前原和幸院長は、「今後、少しでも多くの皆さんが検査できるよう精一杯協力していきたい」と話していました。

市では、今年の検査対象である4歳到達児、妊婦、30代の方に順次案内を送付します。検査は無料ですので、ぜひ受診してください。



▲テープカットの様子

市民プールオープン

7月20日(土)から、市民プールがオープンします。

市では、各施設のオープンに合わせて、プールやプールサイドの清掃を行っています。

また、各施設で放射線量を計測し、安心して使用できるよう確認しています。各施設の放射線量は、ホームページで見ることができます。

《共通事項》

- 期間 7月20日(土)～8月25日(日)
- 時間 ①午前9時～11時
②正午～午後2時
③午後2時30分～4時30分
※東風の台運動公園ふれあいプールの利用時間は異なります。

《総合運動公園市民プール》

- 料金 ▷大人 100円
▷高校生 50円
▷小・中学生 20円
- 住所 北中川原30
- ☎中央体育館 ☎28971

《表郷小プール》

- 料金 ▷大人 100円
▷中・高校生 50円
- 住所 表郷金山字瀬戸原108
- ☎表郷教育振興課 ☎24782

《大信総合運動公園プール》

- 料金 ▷大人 100円
▷高校生 50円
▷小・中学生 20円
- 住所 大信上新城字原畑地内
- ☎大信教育振興課 ☎403976

《東風の台運動公園ふれあいプール》

- 時間 ①午前9時～正午
②午後1時～4時
- 料金 ▷中学生以上 100円
▷小学生 50円
- 住所 東釜子字狐内地内
- ☎東教育振興課 ☎3146



気持ち良くプールを使用してもらうために

今年もプールシーズンが到来しました。市では、皆さんが快適にプールを使用できるよう、市民プールや各小・中学校プールの清掃を行い、準備を進めています。

今月号では、その取り組みの様子や市民プールの開園時期などについてお知らせします。



▲プールの汚れを落とす保護者（白四小）



▲プールサイドの放射線量を測定する様子

◎連続掲載 未来へのたすき
プールの安全性を確保



市内で今年度初のプール授業を行った関辺小の5・6年生。児童たちは、最初は「冷たい」と言っていたが、体が慣れてくると1年ぶりのプールを元気に楽しむ姿が見られました。

清掃
プール開きに向けた

市では、昨年、小・中学校のプールの除染作業を実施しました。その結果、放射線量が低減し、使用することができるようになりました。今年もプール開きを前に、使用する水やプールサイドの放射線量を測定し、安全を確認しました。その後、保護者や教員等で、中に入った土や落ち葉などを取り除き、藻などの汚れを水洗いしたほか、プールサイドも水洗いし、汚れを落としました。

プールの安全性を確保

小・中学校のプールの水には水道水を使用しています。この水道水は、国の飲料水の基準値（10ベクレル/kg）未満です。さらに、各学校とも週に1回放射性物質検査を実施しています。また、授業前にプールサイドの放射線量を測定し、安全を確認してから授業を行っています。そのほか、施設の安全管理を徹底し、事故やけがが発生しないよう注意しています。

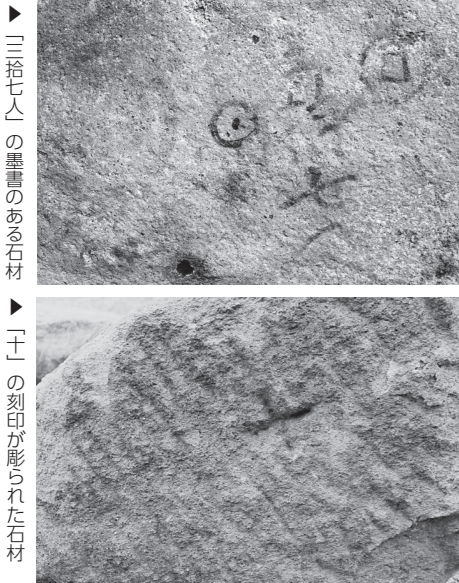


VOL. 3

墨書や刻印のある江戸時代の石材

文化財課（歴史民俗資料館） ☎2310

小峰城石垣再生への歩み



▶ 三拾七人の墨書のある石材
▶ 「十」の刻印が彫られた石材

江戸時代の石材には、矢穴（石を切り出す際に鉄の矢を打ち込んだ穴）などの加工痕のほか、墨書や刻印があります。墨書は「二十式人」や「三拾七人」など人数を書いたものが多く、中には「正」の記号もあります。刻印は「十」や「正」が彫られたものが確認されています。これらがどのような意味を持っているかは不明ですが、石に記された歴史資料の一つとして、石材カルテに記録されています。

本市のシンボル小峰城。東日本大震災で石垣が崩落し、現在、修復に向けた作業を進めています。「小峰城石垣再生への歩み」では、修復の様子や再生に向けた取り組みをお知らせします。

各種証明書の取得がますます便利になります

本庁舎市民課 ☎1111 内2158

本市では、昨年7月から、住民票などの各種証明書をコンビニエンスストアで交付する「証明書コンビニ交付」をスタートさせました。

今年8月からは、これまでのセブン-イレブンに加えて、ローソン、サークルKサンクスでも証明書が取得できるようになります。

■証明書コンビニ交付

本市に登録された住民基本台帳カード（住基カード）を利用して、全国のコンビニで住民票や印鑑証明、戸籍証明、所得課税証明を交付するサービスです。

- 利用時間 午前6時30分から午後11時まで（年末年始を除く）
- 利用方法 住基カードをコンビニのマルチコピー機にセットして操作してください。

- 手数料
 - ▷住民票・印鑑証明・所得課税証明 200円（窓口交付手数料300円）
 - ▷戸籍証明 450円（コンビニ、窓口ともに同額）

《住基カードの取得方法》

住基カードの交付を希望される方は、本庁舎市民課または各庁舎市民福祉課で手続きをしてください。

- 手続きに必要なもの
 - 運転免許証やパスポートなどの写真付き身分証明書と健康保険証、印鑑登録をしている方は印鑑登録証
 - ※写真付き身分証明書をお持ちでない方は、お問い合わせください。



後期高齢者医療被保険者証の更新時期です

後期高齢者医療被保険者証や限度額適用・標準負担額減額認定証の更新の内容など、後期高齢者医療制度についてお知らせします。

本庁舎国保年金課 ☎1111 内2175

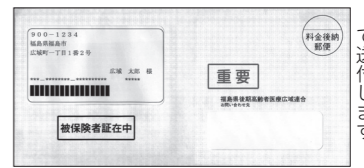


■新しい被保険者証（オレンジ色）を郵送します

75歳以上および一定の障がいがある65歳以上74歳以下の方が加入している、後期高齢者医療被保険者証（ピンク色）の有効期限は、7月31日(木)までです。

8月1日(休)から使用する新しい被保険者証（オレンジ色）は7月下旬に郵送しますので、8月からは、新しい被保険者証を医療機関の窓口で提示してください。

新しい被保険者証は、白い横長の窓開き封筒で送付します。封筒の中には、オレンジ色の被保険者証・小冊子・チラシの3点が入っています。被保険者証は、ミシン目に沿って切り取って使用してください。



◀ 白い封筒に入れて送付します

■限度額適用・標準負担額減額認定証を更新するには申請が必要です

住民税非課税世帯の方で、入院および高額な外来診療を受けるとき、同じ医療機関の窓口で支払う金額の上限が自己負担限度額までとなる「限度額適用・標準負担額減額認定証」の有効期限は、7月31日(木)までです。

8月以降も使用する場合は、改めて申請が必要となります。前年度に利用していて、今年度も該当する世帯には、6月下旬に申請書を送付します。現在お持ちでない方には申請書を送付しませんので、各自申請が必要です。

■障がい認定を受けると後期高齢者医療に加入できます

65歳以上74歳以下の方で、一定の障がいがある方は、申請により後期高齢者医療の被保険者となることができます（さかのぼって加入することはできません）。

【対象となる障がい認定の範囲】

- 障害基礎年金受給者の1級または2級
- 身体障害者手帳の1級から3級および4級の一部

- 精神障害者保健福祉手帳の1級または2級
- 療育手帳の重度

なお、障がい認定を受けて被保険者となった方は、撤回の申請をすることで後期高齢者医療制度から脱退し、国民健康保険や被用者保険等（社会保険等）に加入することもできます（申請日よりさかのぼって脱退することはできません）。

～「不審電話」や「母さん助けて詐欺」にご注意を！！（振り込め詐欺）～

全国各地で都道府県や市区町村の職員を装って電話をかけ、ATM（現金自動預け払い機）からお金をだまし取るとうとする事件が、数多く発生しています。

福島県後期高齢者医療広域連合や本市では、ATMを利用した還付金の払い戻しは一切行っていませんので、ご注意ください。